

# 北海道・白銀荘ベース 山スキー

T野

2024年2月23日-26日

昨年、諸事情によりドタキャンせざるを得なかった北海道は十勝岳の麓にある温泉宿、「白銀荘」ベースの山スキー！！今年、ようやくリベンジすることができました。昨年も訪れているメンバーが言うには、今年はかなり雪が少ないということで、少雪は日本全国共通のようです。それでも、事前の天気予報では今年も昨年同様、好天が期待できそうです。ただ、惜しむらくは数日前に、ここ北海道の内陸の標高1000m超えの厳寒の地で、あろうことかまとまった雨が降ったという現実・・・！！信じられないことです。さらに、気温は下がったもののその後、まとまった雪が降っていないという事実・・・。

これは何を意味するのか・・・？

当然、雨が降って、その後一気に気温が下がれば、雪の表面は凍りカリカリになる。一度死んだ雪が復活するには、気温の上昇と下降を繰り返してザラメ雪になるか、まとまった雪が降って凍った雪を完全に隠し、さらに雪が安定するまで数日待つかのどちらかである。この時期の北海道は、さすがにザラメはないだろう。となると、今後、ある程度の積雪があることに期待をするしかないようだ。雨が降ったのが確か2/20だから3日前。そして我々が現地入りした2/22の夜、この時の千歳は雪景色、この日の千歳はそれなりに雪が降ったようだ。この雪が、我々が行く十勝方面にどう影響しているのか？

多過ぎれば凍った雪面の上に降った雪は非常に不安定なので雪崩に要注意だ。少なければ、ターンのたびにガリを踏み、わざわざ北海道まで来て、パウダーとは程遠いガリガリ斜面を滑ることになる。どちらにしても、今後の予報を見る限り、今回、極上パウダーは期待薄、晴れてくれそうなのが唯一の救いである。そんな、あまり嬉しくない状況で出発の日がやってきた。さて、果たしてどんなツアーになったのか。では報告です。

2/22

仕事を終え、夜の飛行機で千歳入り。空港で格安レンタカーを特殊な方法で受け取り、今日の宿泊地「ホテルグランテラス千歳」へ。ここはリーズナブルなのが気に入り、毎年、千歳入りした夜はいつも利用している。ホテルでは軽くビールを1缶あけて時間も遅いので明日以降のためにおとなしく就寝。

## 2/23 音江山



メンバー T野・H口芳・T村m・S原・A原・T山・T村・S木

初日は、深川にある音江山を目指す。前回、2020年に訪れた時は勝手がわからず、登路を剣山経由に採ったため、時間的なロスもあり、登り返して遊ぶ時間が取れず消化不良だった記憶がある。今回はその時の経験を踏まえ、研究もしてきたのできっと楽しめるだろう。

■写真 最初は車道歩きから始まる。



ホテルを 5:30 頃出発し、「すき家」でしっかり朝食を採って音江山の登山口を目指す。何回か冬の北海道に来ているが、今回、一番気温が低くいかにも北海道らしい寒さだ。これで、数日前に雨さえ降らなかったら素晴らしいパウダーが楽しめたのに・・・ほんとに残念である。

■写真上 素晴らしい氷結の森。

■写真中 うっとりする景色！！

■写真下 純白の森！！



8:30 頃には登山口に着き準備して 8:45 に出発。しばらく待合川沿いの車道を登って行く。この辺りで新雪が 5~10 cm 位か？ だが、その下には想像通り硬い雪の層があり、ストックが潜らない。25 分ほどで川から離れて急斜面をひと登りすると尾根に出る。前回はこちらからさらに尾根沿いを登ってしまい、剣山経由で音江山に登ったが上部がクラフトした痩せ尾根で登るの



に苦勞し、時間をロスしたので、今回は先人のトレースに従い、この尾根の西側を巻くようにして、沢の右岸をしばらく登ってから対岸の斜面に取付いた。この斜面を登って行くと、あの鍋倉山に勝るとも劣らない素晴らしい氷結の森が広がっていた。鍋倉山とは違い、ブナの森ではないが、ダケカンバを中心としたさまざまな木々が、まるで冬眠したがごときにビシッと凍り付き、まんじりともしない



静寂な世界がそこに広がっている。冬型の雪ではない湿った雪が降ったのか、着雪が発達していて、霧氷というより樹氷に近い太さがあり、その姿はまるで純白の巨大なサンゴ？ もしくは衣がたっぷり付いた海老天？ そんなメンバーの口から飛び出す表現が独創的で面白い。

さらに、この頃になると天候が回復！！青空も顔を出し、その純白と紺碧のコントラストが半端ない。こんなスゴイ景色がみられるのは冬山に登っている人の特権だ。しかも、周りに他のパーティーもおらずこの景色を我々が独占している。何と贅沢な時間なのだろう！！ホント幸せ者である。

■写真上 白き北の大地を眼下に登る。

■写真中 音江山山頂！！

■写真下 素晴らしいロケーションで雪煙を上げて滑降。



素晴らしいロケーションを満喫しながら登って行くと11:05 山頂に到着。795mの低山とは思えない眺望が開け、いかにも北海道らしい白い北



の大地の景色が眼下に広がり、我々を圧倒する。ここまでくると新雪が20~30cm位、これだけあれば丁寧に滑ればガリを踏まずに滑れそう。ただし、急斜面のオープンはおそらく弱層が顕著で雪崩要注意ではある



が・・・。

さて、どこにシュプールを刻むか・・・？

登ってくるときにノートレースで気持ちよく滑れそうな場所を探しながら来たが、その中でも西側に開けた疎林が実に魅力的だった。ここ最近冬型にはなっていないので、西斜面でもきつと風には叩かれていないだろう・・・。という判断のもと、この斜面を滑ることにする。たまたに底を打つ場所もあるが、当初の予想を良い方に大きく裏切り、傾斜・雪質申し分なく、北海道

第一弾の滑降は早くも雄叫びモードから始まった。標高差約 200m、写真を撮るのももどかしく一気に滑り降り快樂を味わう。メンバーも皆満足げだ。初っ端から当ててしまった！！再び山頂まで登り返し、さて、帰りはどこを滑ろうか？

シュプールはあちこちにあるが、できるだけノートレースで楽しそうな場所を探しながら落ちていく！！イヤイヤホント快適である。350mほど落として傾斜が落ち着くと、しばらくはボブスレー。最後にトレースで荒れた斜面をひと下りすると車道に出て、あとは再び一気にボブスレー。

13:15 に車デポ地に戻った。

■写真上 氷結の森を登り返す。

■写真中 再び快適な疎林にシュプールを描く。

■写真下 気持ちいい！！

初日から思った以上に楽しめ、でき過ぎの1日であ

った。明日からが楽しみだ。それに、今夜からは待望の白銀荘ライフだ！！まずは旭川のラーメン村で各自好みのラーメン屋に入り堪能。後は軽いつまみと、しっかり酒を購入して白銀荘



へ！！早速、楽しみにしていた温泉で汗を流し、冷えたビールで乾杯！！宿の中は半そでで過ごせ超快適だ。持参したフリースは無用の長物だった。

■写真上 快適な斜面が続く。

■写真下 富良野岳北尾根(左)とジャイアント尾根(右)

Y科さんとM上さんとは宿で合流したが、お二人と

も風邪を引いたようで調子が悪そう。ユンケルで復活してくれば良いのですが・・・。

### ■コースタイム

車デポ地 177m (8:45) ~ (9:10) 登山道 285m ~ (11:05) 音江山 795m (11:30) ~ 西斜面滑降 ~ (11:40) 585m付近 (11:55) ~ (12:26) 音江山 795m (12:45) ~ (13:15) 車デポ地 177m

## 2/24 富良野岳ジャイアント尾根



メンバー T野・H口  
芳・T村m・S原・A  
原・T山・T村・S木・  
M上

三段山に行くかジャイアント尾根に行くか悩んだが、明日の方が、より天気良さそうなので、雪質重視で今日はジャイアント尾根に行くことにする。Y科さんは体調が悪化し今日はリタイヤ。先発隊のM上さんを交えた9名でジャイアント尾根を目指す。車デポ地からトレースに従って川に

下りて3回渡渉がある。水量も少なく、仮設の橋のようなものもあるので容易に渡れるが、落ちたらシャレにならないので慎重に渡る。対岸には昨日大勢が入山したようで、弾丸道路並みの立派なトレースがある。ツボで踏んでも潜らない、というか、トレースの表面が硬すぎてツルツルなので、最初からクトーを装着して出発。良さそうな斜面はないかと目を皿のようにして登るが、正直、どこもギッタギタ。トレースが少ない西側は・・・？と覗いてみると、こちらはカッリカリ。さらに、先人が滑った後はシュプールで削られて硬い凍った雪の層が露出して、あまり快適ではなさそうだ。どうやら、白銀荘周辺は22日の雪はほとんど降ってい



ないようである。ただ、天気は最高なので、純白の十勝の2000m級の山々が惜しげもなく姿を見せて、風も弱く、スキー登山としては最高の条件だ。ここまで天気が良ければ、ピッケル・アイゼンを持参していれば富良野岳のピークハントも可能だったのでは？と思わせるような素晴らしい天気だ。今回、ピッケル・アイゼンは持参していなかったので「行けるところまで」ということで、クトーで安全に歩ける1550m付近まで登り、ここを今回の最高地点とした。



- 写真上 取付きの渡渉点。
- 写真中 1683m峰をバックに。雪が硬くなってきたのでこの辺りが今日の最高到達点。
- 写真下 滑りにくい雪だがロケーションは最高！！



準備して、登ってきた尾根の東側の斜面を滑る。これが、近場の山スキーならばそれなりに満足できただろう。しかし、ここは北海道！！期待もそれなりに大きいわけで、そこを考えると、ほぼ滑りつくされたギッタギタ斜面は、ところどころガリもでていて実に滑りづらく満足感はない。過去に3回、ここを滑って、いつも快適にパウパウ斜面を落ちていたので、期待していただけにやや残念な結果となった。いつも、喜んで雪の中を駆け回る子犬のようにテンションが高いA原さんから、まさかの「お家に帰りたい。」発言が飛び出し、他のメンバーも「登り返してまでこの斜面を滑りたくない。」という



空気が流れていたのので、今回は登り返しなしの早上がりとなった次第である。

■写真上  
ジャイアント尾根の滑

降！！

■写真中 前十勝をバックに。

■写真下 三段山に向け白銀荘を出発。



ただ、こうなると明日滑る予定の三段山も似たり寄ったりの状況が予想でき、大きくテンションが落ちる。いっそうの事、明日は早起きして、まだあまり知られていないが故、ノートレースが見込める幌加内方面の山に行こうか！！という発想が頭をもたげる。どのくらい時間がかかるか検索してみると、白銀荘から約2時間ちょっと！！「充

分行けるじゃん！！よし、明日は早起きして幌加内だ！！」ということになる。そして、今日は時間がたっぷりあるので上富良野町に買い出しに出かけ、2日分の食材や酒をしっかりと買い出し。そして温泉➡さらに宴会といういつものコースとなった。

■コースタイム

駐車スペース 995m (8:00) ~ (9:50) 1550m付近 (10:15) ~ (11:10) 駐車スペース 995m

## 2/25 三段山



メンバー T野・H口芳・T村  
m・S原・A原・T山・T村・S  
木

幌加内に出発すべく4時半に起床。すると、嬉しいことに雪が降ったようで10cm程度は積もっているようだ。シュプールもうっすらと埋まっている。完全復活とまではいかないまでも昨日よりはかなり柔らかい雪が復活したように思える。であれば、幌加内まで遠路はるばる行く必要はない。早起



きして時間はたっぷりあるのでゆっくり準備して朝風呂を楽しむ人は楽しんで、今日は三段山を目指そう！！白銀荘はどの山もアプローチが激近でこういう楽しみができるのが良い。

■写真上 富良野岳をバックに。

■写真中 前十勝岳（左）と十勝岳（右）

■写真下 絶景だ！！



Y科さんは相変わらず体調不良が回復せず、M上さんも、今日は休養ということで、8名で日帰り組に斜面が荒らされる前にと7:00に出発。トレースはしっかり残っているが、昨日と違いうっすら雪が積もったので歩いていてもフカフカ柔らかく気持ちがいい。さらに、昨日に増して素晴らしい天気！！登るにつれ



広がる銀屏風に囲まれ大絶景を満喫しながら登る。

気温は-10℃以下と激寒だが風もなく穏やか、今日も絶好の登山日和だ。当然山頂を目指す。上部は念のためにクローを装着するが難なく9:20に三段山山頂着、絶景を満喫する。

昨日登ったジャイアント尾根の上には彫の深い富良野岳が聳える。素晴らしい山容で登頂意欲を沸かせる山である。さらに、左に目を転じると上富良野岳・上ホロカメットク山、さらにこの辺りの主峰、十勝岳や噴煙を勢いよく吹き上げる前十勝、遠くには大雪の山々も望める。見慣れない景色に大興奮！！氷結したこれらの山々の連なりはホント「見事」の一言。こっち





の人が初めて北アの銀屏風を目にしたら、今の僕と同じように大興奮するのだろう。やっぱり初見の景色はインパクトがある。

■写真上 三段山山頂！！

■写真中 凄いロケーション！！

■写真下 its show time！！



さて、どこを滑るか・・・？尾根の西側は雪が硬いので、東に向いている斜面であまり人が滑っていない場所、ということで、三段山から西に延びる尾根を少し滑り、北西に落ちる尾根の東側の斜面を落とすことにする。概ね快適だが、ところどころ硬いところがあり板が引っ掛かる。ただ、ロケーションは抜群！！さらに、標高が落ちて沢状の地形に入ると素晴らしいパウダーが溜まっていてこれぞ北海道！！という雪が少し楽しむことができた。結局、滑って行くほどに良くなってきたので「もう少し、もう少し」と滑っていくうちに約400mも落としてし



まった。それでもまだ時間もあるし、せっかくなので再び登り返すことにする。快適だった斜面と同じ向きの斜面を滑ろうと約160m登り



返し再び滑降。  
ただ、  
ここは  
雪が少  
なくブ  
ツシュ  
が出て  
いてち  
よっと



失敗。なんでも去年はここが面ツルで最高に気持ち良かったということだ。やはり今年は絶対に雪が少ない。ただ、森の中に入れば雪も良く超快適！！今日はどうやら標高の低い森の中の方が快適に滑れるようだ。「実は私、こういう森の中を滑るのが好きなんです！！」とはカナちゃんの弁。「御意！！」である！！僕も冬はこういう森の疎林を滑るのが大好きだ。通常ルートよりかなり西側を滑ったのが功を奏してほとんどノートラックを滑ることができて大満足。最後に大幅にルート修正して、見事、白銀荘の前に降り着いた。

昔はこういうルート取りは現場に相当詳しくないとできなかった。時代は変わった！！一目でどこにいるのかがわかる文明の利器、「ヤマップ」に感謝だ！！

#### ■コースタイム

白銀荘 1015m (7:00) ~ (9:20) 三段山 1748m (9:42) ~ (10:00) 1335m付近 (10:17) ~ (11:05) 1500m付近 (11:30) ~ (12:10) 白銀荘 1015m

## 2/26 幌加内・鷹泊山



メンバー T野・H口芳・T村  
m・S原・A原・T山・T村・  
S木

■写真上 去年は面ツルだった斜面。

■写真中 富良野岳が実に絵になるなあー。

■写真下 鷹泊山目指して出発。

最終日は幌加内の鷹泊山に向かう。鷹泊山は鷹巢山とも呼ばれている 653mのピークで、地図に山名も載っていない小ピー



クである。幌加内にはこんな500~600mクラスの山がたくさんある。北海道屈指の積雪量と、道北に位置するゆえの低温で、低山とは思えないパウダーが楽しめるエリアである。過去に、冬路山・坊主山・犬牛別山などを滑ってきたが、どこも「疎林の山」という印象が強く、まだまだ楽しめそうな小ピークがたくさんあり、体力的に下り坂となってきた今、俄然興味の湧いたエリアである。ということで、お初の「鷹泊山」、ヤママップでいくつかの記録を読み、とにかく行ってみることにする。

昨日同様早起きして6:00頃には白銀荘をチェックアウト、今日もY科さんは体調戻らず、M上さんも不参加で、今回ほとんど一緒することがなかった。残念だが体調不良では仕方がない。次回、ぜひ楽しみましょう！！

■写真上 鷹泊山は穏やかな疎林の山だ。

■写真中 山頂直下のまるで防風林のような木々。

■写真下 鷹泊山山頂！！

登山口の幌加内トンネルを出た場所にある駐車スペース（下幌加内ダム湖畔の駐車スペース）に車を停めて8:40出発。全体的に地形図通りの穏やかな山だ。今日は、天気が今一つなのが残念だが、その分雪質は良さそうなのでパウダーは期待できそう。雪が軽いからか、樹林にあまり着雪することはなく、音江山にあったような氷結の森は存在せず、開けた疎林が続く。探せばあちこちに快適に滑れる斜面が眠っているようだ。ただ、規模は小さく、せいぜい標高差で200m位だろう。



そういう斜面を見つけて、滑っては登り返して別の斜面を滑る、これを繰り返すのがどうやら幌加内の山の楽しみ方のようなのである。その日の天気や気温、風向きを考えて滑る斜面を決めることもその日、楽しめるかどうかの大事な分岐点である。そういう意味では、天候や風、雪質、地形等、幅広い知識が必要なエリアだと思う。

■写真上 鷹泊山の滑降！！

■写真下 どんどん滑る！！

10:05 には鷹泊山山頂着、登るだけなら2時間もかからない。いくら今日帰京

するからといっても、このまま帰ったのではあまりにあっけないので南東斜面を1本落すことにする。山頂から見た感じ、悪くなさそうである。ということで、山頂から直接落としてみたが、斜面がうねっていて雪質も悪く、さらに、すぐに深い沢が現れて大失敗！！地形図ではわからない、行ってみなければわからない失敗だった。510m付近まで140mほど落としてみたが、ちっとも快適ではないので、早々に登り返すことにする。登りながら辺りを見渡すと、山頂から南に少し降りた鞍部から東北東に落ちる尾根ははかなり快適そうで、300m位落とせそうな斜面が続いていることに気づく。次回機会があったらここを落とそうと心に誓う。実際、登り返しは上部でこの尾根に合流したが、斜面を見下ろすとイイ感じの斜面が続いていた。先程滑った斜面と微妙に方角も違い、少し北に向いているので雪質も期待できそうだ。

再び、山頂付近まで登り返して帰路につくことにする。登ったルートは傾斜が緩く、トレースもうるさいのでトレースが少ない快適そうなところを探しながら滑る。結局、往路の一本西側の尾根を滑っていく。徐々に傾斜が出てきて気持ちの良い滑降が楽しめた。390m付近の沢に滑り込んで444mピークに登り返す。そして今度は傾斜に任せて往路の1本東の尾根を滑る。ここも雪質と傾斜に恵まれて快適な疎林を気持ちよく滑降！！やがて、平坦地に出ると立派なトレースがあり、そのトレースに導かれてほとんど漕ぐことなく戻ることができた。

幌加内はこんな感じの山がたくさんあるので、その気になれば午前1山、午後1山なんていうことも無理なくできるだろう。まだ、それほど知られていないので、しっかり研究して再訪したいエリアである。

今回、数日前に季節外れの雨が降るなど、どうなるかと思ったが、全体的に天気に恵まれ、ところどころ良い雪にも出会えて幸せな山行だった。厳冬期は年に1回は北海道を訪れた



い！！そして、いつか1ヶ月くらい滞在して余裕をもってこの辺りの山々を滑りまくりたい！！これが目下のところ僕の夢である。

いつもの事ですが、ご一緒したメンバーには感謝します。特に、宿関係やレンタカー関係、会計など面倒な任務を引き受けてくれたA原さんとEさん、有難うございました！！最近、行きたい場所に一緒に行くメンバーがいるというのが、かなり幸せなことだと思うようになりました。未永く楽しみたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

■写真上 三段山山頂直下を登る！！

■写真下 純白の十勝岳！！

■コースタイム

駐車スペース (8:40)

～ (10:05) 鷹泊山

(10:25) ～南東斜面

～ (10:40) 510m付近

(10:52) ～ (11:19)

645m付近稜線

(11:30) ～ (11:50)

390m付近 (12:05) ～ (12:16) 444mピーク (12:26) ～ (12:50) 駐車スペース